

タイトル 『むら』 作 三浦 実夫

登場人物

鉄男 (四二) 建築家
凜子 (四二) 村史編纂委員長
透 (四二) 建設会社々長
美紀 (四〇) 鉄男の妻
紅葉 (四〇) スナックのママ
邦彦 (四二) 村の財政部長
細川 (三五) 県庁職員のエリート
宗方 (三二) 会社員
南原 (二七) 村役場職員
狩谷 (四五) 村長
平洲 (八〇) 和尚
松造 (五五) 牧場主

【一幕・一場】 一九九二年 五月 淵牛（えんぎゅう）公園

淵牛公園は、かつて蝦夷の頭領安倍貞任の館跡があった所で、ダムを眼下に望む崖絶壁の上である。
舞台中央に木製のテーブルと数脚の椅子が設置され、上手奥に桜の太い幹。その根方に自殺した無縁仏を祀る石碑がある。
舞台中央奥は崖の突端になっており、張り巡らされ鉄製の柵に「早まるな！ 家族があなたを待っている！」と書かれた自殺防止の看板が見える。

柵の向こうにダムの水面が陽光に煌めいて、カッコウの鳴き声が聞こえている。
テーブルの上に紫の風呂敷包みと、供用の花が置かれてある。
喪服姿の凜子が湖を眺めている。
下手からステッキを頼りに透が現れる。
透、凜子に向かって鋭く口笛を吹く。
少し驚いた様子で透を振り返る凜子。

透 喪服が嫌に色っぽいねえー。

凜子 あら、早かったね！
透 (笑って) 出てくるんじゃないか？
凜子 何が？
透 色香に誘われて、死んだ亭主がさ。
凜子 来た早々、何馬鹿言ってるの！
透 早いなあ。横村が死んで五年なるか？
凜子 この冬迎えると七回忌よ。
透 あの大泣きしてた鉄平が高校生だもんな。で、鉄平は？
凜子 合宿。もう甲子園めざしてまっしぐらよ。
透 ホントに合宿か？
凜子 どういう意味よ？
透 鉄男がくるんで隠してんじゃないのか？
凜子 そんな分けないでしょ。
透 奴と何で別れたんだ？ 俺には今でも謎だよ。
凜子 昔話は、とつくに忘れたわ。
透 もう若くねんだから意地張らねえでさ…。

下手から、スポーツバッグを下げた鉄男がくる。
チノパンにスニーカーのラフなスタイルである。

透 へへ、噂をすればなんとやら。ご本尊のお出ませ。
凜子 鉄ちゃん！
鉄男 おお、凜子！
凜子 久しぶりね。
鉄男 ああ、何で喪服なんだ。どつか法事でもあるのか？
凜子 うーん、ちよっとね…。
鉄男 で、下に停まってる真っ赤なボルシエ。お前のか？
透 ああ、東北道を弾丸みてえによ。クサクサした気分も風景も、なにもかもみーんな後にぶっ飛んでさ。気持ちいいよ！
鉄男 嫌だねえ。いい歳こいて暴走野郎かい？
透 スリルとサスペンスのカーレース。乗ってみるかい？
鉄男 嫌なこった。お前と心中なんてよ。
凜子 事故らないでよ。村の大事なスポンサーなんだから。
鉄男 で、そのステッキは何の事故の名残りだい？
透 貧乏暇なしでね。転ばぬ先の杖さ…。
鉄男 何が貧乏暇なしだ。散々儲けてやがるくせに…。
透 ま、せっかちな俺に、ゆっくり歩いて神様がくれたのさ。
鉄男 ったく、嫌みも減らず口も昔のまんま…。
透 口も減らねえが借金も減らねえで困ってるよ。
鉄男 けっ、馬鹿言いやがれ…。

と、悪態ついて廻りを見渡す鉄男。

鉄男 しかし、あの藪だらけだった広場が、こんな立派な公園になっているとは、夢にも思ってたよ……。

透 出て行ったきり、一度も帰ってこねえからよ。

鉄男 でも、ここからの風景だけは、あのころと変わってないな。

凜子 私たち子供時代の聖地だったからね……。

透 俺たちの人生の出発は、ここからだったな……。

鉄男 この大自然とダム湖の湖しかない過疎の村が幸いして、国が肝いりの大プロジェクト。「しゃくなげリゾート」開発の白羽の矢が立つとはな……。

と、陽光に煌めくダム湖を眺める三人。

そこへ、下手から息を弾ませて狩谷が現れる。

狩谷 やれやれ、いつきてもここの石段はきついな……。

と、上がった息を膝に手を乗せて整える。

透 それには、その狸っ腹を退治しねえと。

鉄男 確かに、どう見ても運動不足の祟りだね。

狩谷 「しゃくなげリゾート」の誘致で、夜も昼もない接待でな。

凜子 村長は、ただ酒をいいことに飲み過ぎです！

狩谷 節制を心がけてはいるんだがね……。

凜子 村長は、村の宝なんだから……。

狩谷 分かった、分かった……。と、凜子を手で遮り「ま、今度の「しゃくなげリゾート計画」は村にとっちゃあ、村史はじまって以来の天からの恵み……。

凜子 その計画全体のシンボルであり、センターの役割を果たす「ホテル湖上閣」は「北原鉄男設計研究所」所長の鉄ちゃんが設計……。

そしてその建築は「栗原建設」オーナーの透が施行するなんて、悪戯鬼だった二人からは、とても考えられないわね。

透 おいおい、それは凜子に先見の明がねえからよ。

狩谷 ま、故郷に錦を飾る名誉ある再会だ。二人の息のあったタッグでよろしく頼むぜ！

透 へへっ、あったり前田のクラッカーよ。なあ、鉄男先生？

鉄男 ああ、俺の設計は一分の狂いもないんだ。手抜きはなしでしっかり頼むぜ。相棒！

透 けっ、それはこっちの台詞よ！

と、握手して力を込め合う鉄男と透。

透 い、痛ってーよ！（と、地団駄踏んで痛がる）

鉄男 （笑って）ざまあ見ろ。俺の勝ちい！

凜子 やめなさいよ。いい歳こいて…。

狩谷 まったく、いつまでもガキだな。

と、笑って再開を喜び合う四人。

狩谷 こうして四人揃ったのは、鉄男と凜子の駆落ち以来だな。

透 同じ建親築会社に就職決った方がいいが、鉄男と凜子が親に反対されてよ。「集団就職のバスじゃ連れ戻される」からって、先輩と二人でここに荷物運んでさ…。

狩谷 犬の遠吠えにびくつきながら二人を見送ったな。

凜子 （神妙に頭を下げ）その節は大変お世話になりました。

鉄男 月明かりを頼りに、ブナ林の山道を凜子と夜通し歩いてよ。

凜子 残雪の斜面に長い陰が踊ってね。ザクザクザクッ、霜柱を踏む音が谷間に飴して、どこまでも追いかけてきて怖かった…。

鉄男 やつと鳴子の駅について、ベンチに座ってたら、お巡りさんに尋問されてさ。家に送り返されやしないと焦ったな…。

凜子 「就職列車で東京行く…」って言ったら、おらとこの息子も行くと言って、くしゃくしゃの五百円さつの選別くれてね。

鉄男 急に腹がへって、立ち食い蕎麦にかけ込んでさ。

凜子 美味しかったな。あの時の掛けそば…。

透 ったく、いい気なもんだぜ。

鉄男 何が？

透 俺と先輩はよ。えれえ大変だったんだぞ。

鉄男 え、何かあったのか？

透 朝、集団就職のバス乗り場で凜子の母ちゃんが「おめのドラ息子が娘を勾引すた！」って鉄男の親父さんに食ってかかってよ…。

狩谷 そしたら、鉄男の親父さんが「おめの娘っ子が倅を誑かすた！」

ってやり返したもんだから、掴み合の大喧嘩なつてさ…。あげくが「二人の駆落ち仕組んだのはおめだな」って、こっちに、とばっちり喰らって目にあつたよ。

鉄男 えーっ、本当かよ。

凜子 （方言で）その節はえらぐ迷惑かげすた。

狩谷 「十五の春の駆け落ち」は、いまだに村の語り草よ。

鉄男 何だか居心地悪い雰囲気だなあ。

狩谷 「しゃくなげリゾート」で借りを返して貰うさ。

鉄男 はいはい、熨斗つけてお返しします。
狩谷 その鉄男が売れっ子建築家に：透は上場企業のオーナーに出世してよ。送りだした俺は鼻が高いつてもんよ。
透 そう言う先輩は、三代に渡って村を牛耳る村長様…。
凜子 二人は、先輩のお陰で村に錦を飾れるんだから感謝しなさい！
透 へーい、肝に命じておりやすよ。
狩谷 学校をさぼって、野山を駆け巡っていた悪戯ガキの俺たちが集まって、新しい村作りとはなあ。
鉄男 先輩に設計を頼まれなきや、一生来ることなかったですよ。
狩谷 それで、村を視察して廻った感想はどうだい？
鉄男 栗駒の自然とこの湖の調和は最高ですが、あの碎石場跡の景観がネックですねえ…。
狩谷 県からも「しゃくなげリゾート」計画に、相応しくないって、クレームがきてるんだよ…。
鉄男 それと鳴子温泉から新庄。小安温泉郷に抜ける千秋ライン。須川温泉から厳美峡へのルートはいいですが、肝心の新幹線の高原駅からのアクセスが問題ですね。
狩谷 それについては、阿部先生が動いてくれる…。
鉄男 阿部先生って、元環境庁長官の阿部代議士ですか？
狩谷 うん、廃坑になった鉱山鉄道の軌道を使って、高原駅と村を結ぶ計画で動いてくれる…。
鉄男 それは面白いルートだな。軽便鉄道の輸送が使えると。
狩谷 「しゃくなげリゾート」の計画は、国と県の肝いりで進める、第三セクター方式だから実現は間違いないさ…。
鉄男 それに、ゴルフ場、スキー場、レジャー施設の建設…。
透 で、「しゃくなげリゾート」計画のシンボル。「ホテル湖上閣」の図面は上がったのかい？
鉄男 (バッグを叩いて) ああ、ここで待ってるぜ。
透 (笑って) 鉄男の図面と真つ向勝負なんて腕が鳴るぜ。
鉄男 敵はこの岩盤だ。なかなか手強い難敵だぜ。
透 ふん、腕の見せ所ってことよ…。

そこへ、下手から美紀が現れる。
都会的センスの洋服を着こなしている。

美紀 凜子さーん！
凜子 あら、美紀ちゃんなの？
美紀 はい、来ちゃいましたあ。

と、駆け寄り凜子にハグする。

凜子 若いころと、ちっとも変わらないわね。
美紀 凜子さんも…。
透 (鉄男に) 美紀ちゃんも、ご同行かい？
鉄男 やいのやいの、せがまれてさ…。
透 (美紀に) 羨ましい限りだねえ。夫婦仲が良くてよ。
美紀 透さんは、奥様とご一緒じゃないんですか？
透 我が家は、いつも別行動の一人旅よ…。

そこへ、息を弾ませた平洲が現れる。

平洲 やれやれ、寄る年波には勝てぬわい…。
鉄男 あ、平洲和尚。ご無沙汰してます。
平洲 お、鉄男か？ 元氣そうで何よりじゃな…。
凜子 和尚、遅刻ですよ。
平洲 美紀さんに、村の名所旧跡を案内しておつてな…。

そこへ『川の流れのように』を歌って紅葉が現れる。
後ろから缶ビールのケースを抱えた松造がくる。

平洲 おーっ、村一番の歌姫とベコ飼い夫婦のご登場じゃよ。
松造 どうも待たせすた。
狩谷 紅葉がお待ちかねの北原先生だよ。
紅葉 あらー。鉄男さん？
鉄男 えっ、紅葉か？
紅葉 随分、頭薄くなつたごど。
鉄男 紅葉の貫禄には叶わんよ…。
紅葉 (笑つて) ダーリンの愛情の賜物ががす。
鉄男 えっ、ダーリンて…開拓部落の松造か？
松造 うーす。
紅葉 凜子ど駆落ち以来でがすへ？
凜子 紅葉！
紅葉 どすたの。おつかね顔すて？
凜子 こちらが北原先生の奥様よ！
美紀 初めまして。家内の北原美紀です。
紅葉 たまげだめんこいごど…。
凜子 ファッションモデルだからね。
紅葉 (鉄男に) むがすの焼け木杭。燃え上がらねよに気つけらえんよ。

「がはは」と笑つて鉄男の背中をバシツと叩く。

鉄男 痛てえーな。何なんだよ。いきなり…。
紅葉 出世すて錦飾った凱旋の祝福がすよ。
美紀 (可笑しそうに平洲に) 楽しい方ですね。
平洲 『NHKのど自慢』で歌って、鐘一つに審査員に文句つけて、三つ叩かせた女傑だからのう。

凜子、石碑の前に位牌を据えて花をかざる。
線香を煙らせる狩谷。

狩谷 (平洲に) 和尚、そろそろ…。
凜子 宜しく願います。
平洲 おお、すっかり整ったようじゃな…。

と、据えられた椅子に腰掛ける平洲。
袂から数珠を出して両手に絡ませる。

平洲 摩訶般若波羅蜜多心経：(まかはんにやはらみったしんぎよう…)
観自在菩薩 行深般若波羅蜜多時 照見五蘊皆空 度一切苦厄
かんじざいぼさつ ぎようしんはんにやはらみったじ しょうけ
んごうんかいこう どいつさいくやく)

平洲、経文を唱えて凜子に焼香を促す。

平洲 色即是空 空即是色 受想行識…(しきそくぜくう こうそくぜ
しき じゆそうぎようしき…)…是故空中 無色無受想行識…(ぜ
こくうちゆう むしきむじゆそうぎようしき…)
…。

凜子、焼香して石碑に向かい合掌。

平洲 無眼界 乃至無意識界 無無明 亦無無明尽…(むげんかい な
いしむいしきかい むむみよう やくむむみようじん…)
美紀 (透に) どなたの供養なんですか？
透 凜子の亭主さ…。
美紀 凜子さんのって…。
鉄男 えっ、槇村？
狩谷 吹雪の晩に、病院から姿くらましてな。
松造 その桜の樹さ身体ば縛って、絶食死すたがす…。
鉄男 そんな馬鹿な…。

松造 冬場は、滅多に公園さんがこねだで。おらが発見するのが十日経ってがらで、氷柱がぶら下がって桜の樹と一体がすた…。

鉄男 あの榎村が絶食死…。

松造 大将、まなぐ(目)開いでダムば睨んでや…。

平洲 以無所得故 菩提薩埵 依般若波羅蜜多故…(いむしよとくこ

ぼだいさった えはんにやはらみったこ…)…故知般若波羅蜜多是大神呪 是大明呪 是無上呪…般若心経(こちはんにやはらみった ぜだいじんしゅ ぜだいみようしゅ ぜむじようしゅ…はんにやしんぎよう)

と、平洲の読経が止んで焼香が終わる。

全員、テーブルの前に移動。

松造がみんなに缶ビールを配る。

松造 村長、まんず献杯を…。

狩谷 えー、では「第二ダム建設反対闘争」を指導し、ダム建設を阻止に導き、新しい村作りに多大な貢献をした。榎村健彦同志を忍んで献杯！

全員 けんぱーい！

全員、狩谷に缶ビールを捧げて献杯する。

松造 何ともはや、何事も強烈な大将でがすたな…。

平洲 『北斗新聞』が彼の死を報じたおかげで、反対の世論が広がって「第二ダム」を断念させることが出来たのう。

狩谷 いつも先の先を読んだ行動でしたからな。

平洲 まさに、村を救った昭和の英雄であつたのう。

美紀 (凜子に) 今日、息子さんは？

凜子 野球の合宿でね…。

透 鉄平は、県立高のキャッチャーで、チームを率いる司令塔。甲子園目指してまっしぐらよ。

美紀 ずいぶん、頼もしい息子さんですね。

松造 そりゃあ、榎村大将の倅だでな。

凜子 向こうっ気が強いところだけ似て…。

美紀 この碑は榎村さんの？

凜子 ここで亡くなった、人たを弔うための碑よ。

松造 おらは大将の碑ど思ってる！

凜子と美紀が石碑の前に移動、凜子が位牌を風呂敷に包む。

狩谷、透、平洲、松造、紅葉が柵の側に移動する。

独り、チビチビとビールを飲む鉄男。

狩谷 (透に) 鉄男の奥方は、凜子と知り合いか？

透 凜子から聞いてない？

狩谷 東京のことは、話してくれないんだよ。

透 俺も詳しく知らねえが、榎村は「ベトナム反戦」活動のリーダー

だよ。凜子を巡って鉄男と色々あったんだ…。

狩谷 鉄男が村に帰ってこなかったのは、それが原因か？

透 俺はそう睨んでるがね。

そこへ、凜子と美紀も合流する。

凜子 子供の頃、ここから眺める山々は、見渡す限りのブナの原生林で

ね。春の新緑と秋の紅葉は、それはそれहतつても素敵でね…。

美紀 あら、それは残念ねえ？

平洲 国のアホどもが製紙会社と結託して、パルプ材に払い下げて伐採

を重ねてのう。今は栗駒山の麓に僅かに残るだけじゃ…。

美紀 こんな綺麗な山脈を、もったいないですね。

松造 中学生なると、植林や下草刈りのアルバイトで漫画買う小遣いや、

修学旅行の費用稼いだもんですが。

平洲 その手塩にかけて育てた杉も、外材の輸入で宝の持ち腐れでのう。

松造 ブナの伐採ですっかり山が腐ってしゃ、台風のたんびに川すもの

田畑が被災すて、このダムが造られだでがす。

平洲 そのダムの景観が「しゃくなげリゾート」の決め手になるとは、

皮肉な話じゃのう。

狩谷 和尚、時代の流れですよ。

平洲 何であれ、これ以上、熊や羚羊の住処を荒らして欲しくないのう。

狩谷 国と県が進める、第三セクター方式のリゾート開発。環境庁が睨

みきかせてますから心配はいりませんよ。

平洲 そうだと嬉しいが、どうも、お上のやることは信用できんでのう。

狩谷 鉄ちゃんが描いた図面は、人間と動物の共生考えてるから…。

平洲 (笑って) 人間様の幸せが優先であったのう。

と、凜子と美紀を残してテーブルに移動。

凜子 今もモデルの仕事が続けているの？

美紀 とんでもない。いまはデザイン一本です…。

凜子 都会の最先端にいと、鄙びた田舎の風景は退屈でしょ？

美紀 退屈だなんて。都会で味わえない至福の時間をいただいています。

凜子 この村は鬼首から出羽、胆沢、多賀城へ通じる要衝の地でね。こ

の「猿飛（さるつばね）」の高台は、栗原の穀倉地を一望できることもあって、古には蝦夷の頭領安倍貞任（えみしのとうりょうあべのさだとう）の城柵があったのよ。

美紀 あら、古代のロマンが漂ってくるようですね。

凜子 安倍貞任は、松尾芭蕉が衣川の畔で、『夏草や兵どもが夢のあと』と詠んだ東北の英雄だね。前九年の役で源頼義（みなものよりよし）・義家（よしいえ）父子が率いる朝廷軍を、この猿飛の峡谷を塞ぎ止めて迎え撃つたと伝えられているのよ。

美紀 凜子さん、随分くわしいんですね。

凜子 今、村からの依頼で「村史」の編集をしているの。

美紀 ああ、それで…。

凜子 奥州を統一して仏国土を築いた藤原清衡（ふじわらのきよひら）の時代には、平泉を中心に一万寺を越える寺があったと伝えられて、和尚の寺には運慶作の仏像があるのよ。

美紀 まあ、こんな山奥に運慶の仏像が？ 歴史の奥が深そうですね…。真贋のほどは定かでないけどね。一度観せてもらおうといいわ。

そこへ、下手からゴム長を履いた邦彦と南原が現れる。

南原 みなさーん。大ニュースですよーっ！

狩谷 騒々しいな。人の休養日を邪魔するんじゃないよ。

南原 村長、のんびり休養してる場合じゃありませんよ！

狩谷 何だ。用があるなら、さっさと報告しろ！

邦彦 待て待て、そのニュースは俺が語る約束だぞ。

紅葉 どっちでもええから、早ぐ語らえん。

邦彦 発表しまーす。碎石場の跡地から温泉が湧き出たんですよーっ。

狩谷 嘘だろ？

南原 それが本当の本当なんです。それも白濁の硫黄泉。

邦彦 専門家の話では、 80°C の熱湯で毎分 600kg の湯量だって！

透（鉄男に）話が本当なら「湖上閣」の設計を変えないといかんな。

鉄男（少し考えて）大露天風呂の建設なんてのはどうだ？

透 それだ。あつと驚く豪快な設計を頼むぜ！

鉄男 任せなさーい。

邦彦 村長ーっ。これで開発計画に弾みがつきますね。

狩谷 みんな、ぐずぐずしてないで、見に行こうじゃないか！

松造 百聞は一見にすかず。行くべ行くべ…。

美紀 すごいですね。

紅葉 たまげすたちや。

凜子 厄介な碎石場から温泉とは、「村史」に残る大吉兆…。

平洲 瓢箪から駒とはこのことじゃな。

と、会話しながら狩谷を先頭に下手に去る。
鉄男、凜子の袖を掴む。

鉄男 待てよ。

凜子 何？

鉄男 榎村に何かあったんだ？

凜子 何って、いろいろよ。

鉄男 何で知らせてくれなかった…。

凜子 知らせていたら、大変だったわよ。

鉄男 何で？

凜子 (笑って) 鉄ちゃんを、すごく恨んでいたから。私…。

鉄男 冗談じゃない。それは俺のセリフだよ。

凜子 何もないわよ。話すことなんて…。

と、鉄男を振り切って去る凜子。

—つづく—